

令和2年度 学校評価報告書

学校番号(小9) 長崎市立(桜町小)学校

1 教育目標

自ら学び 自ら考え 自ら行う～さすが さいこう さくらまち～ <めざす子ども像> ～自立し、共に、よりよく生きようとする桜町っ子～ ○ よく考え、工夫する子ども ○ 助け合い、励まし合う子ども ○ 明るく、たくましい子ども

2 学校経営方針

<学校像> ○ 教職員が有機的に結びついた学校 ○ 効果的で美しい環境が整備された学校 <目指す教職員像> ○ プロとしての資質を磨き続ける教職員 ○ 子どもとの信頼関係を構築する教職員	○ 挙校支援体制のある学校 ○ 家庭・地域と連携する学校 ○ 新学習指導要領に基づき実践する教職員 ○ 基本的学習・生活習慣、豊かな心を身に付けさせる教職員
--	---

3 重点目標

○ 「さくらまち習慣」の徹底 ○ 縦割り活動の充実 ○ よい行い、よい学び、よい言葉の励行 ・ボランティア活動の充実 ・授業改善に向けた研鑽 ・挙校支援体制の向上 ○ 働き方改革の推進
--

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	98	94	100	「教育目標」「学校の雰囲気」については、三者とも昨年度よりポイントが上がっており、十分達成していると言える。「組織運営」「業務改善」については、大きくポイントを下げたが、働き方を改革しようという意識の表れと考える。コロナ禍における負担感も影響していると思われる。課題を明確にし、具体的に改善を図っていく。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	87	98	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			87	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			66	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	93	95	90	本校の大きな課題である挨拶が改善していることが数値に表れた。毎月の振り返りや児童会の取組、日々の指導が奏功している。この評価を児童に知らせ、3学期さらに向上するように働きかけたい。「あ・は・は」運動の認知度の低さは、本校の取組の柱である習慣化の充実によるもので、実態としては満足してよいと考える。昨年度、課題として挙げていた「平和教育」は、児童・保護者の評価が上がっている。一過性の指導ではなく、日々の取組が評価されたと考える。
		挨拶をよくしている	96	82	84	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	56	69	66	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	92	88	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	90	84	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	92	94	97	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	92	94	97	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	95	80	100	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	99	98	100	昨年度、職員の評価が低かった「環境整備」が8ポイント以上高まった。要因としては、備品や教材の整理整頓と「見える化」が推進されたこと、率先して環境を整備する職員のような取組によるものと考えられる。今後も互いに気持ちよく働ける環境づくりに努めたい。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	93	95	96	
		家庭学習の習慣が身に付いている	95	85	90	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	86	89	100	
長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである		94				

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	96	96	97	「保健・衛生」について、高い評価が出ている。コロナウイルス感染症に対する様々な手立が功を奏しており、児童や保護者にも認知されていると考える。今後も油断なく、感染症対策を進め、充実した教育活動を展開したい。「体力向上」に関しては、児童の評価が大きく上がった。朝のトラック走りや体育科の充実が要因と考える。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的な生活習慣)が身に付いている	88	87	90	
		体力向上に努めている	87	94	84	
	食育	食に関する教育活動を行っている	84	95	81	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	97	95	97	「安全管理」については、高評価となっている一方で、保護者から校門の常時施錠を求める声が増えている。学校だけでは改善できない難しい課題である。「情報提供」は、昨年度からポイントが微増。今年度、発足した学校運営委関係者会議を核に、本校の取組を地域・家庭に周知し、理解を深めるための持続可能な取組を考えたい。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	71	90	94	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	73	97	94	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			97	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	97	96	94	昨年度、職員の評価が低かった「環境整備」が8ポイント以上高まった。要因としては、備品や教材の整理整頓と「見える化」が推進されたこと、率先して環境を整備する職員の様々な取組によると考える。今後も互いに気持ちよく働ける環境づくりに努めたい。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			91	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

保護者の評価については、前年度比、全22項目中14項目が向上している。残りの4項目は、ほぼ変わらない数値で、大きくポイントを下げた項目は、「あ・は・は運動」1つのみ。この点については、本校独自の習慣化の取組でカバーできている。高評価の項目のうち、最もポイントが上がったのが「体力向上」である。コロナ禍において、運動会や小体会、冬のオリンピック等の行事を工夫や配慮しながら実施した点や日常の体育科学習の充実が評価されたと考える。本年度の学校経営の柱として掲げた挨拶指導については、「あじさい挨拶」の取組により、改善へ向かっていることが数値にも表れた。校長を筆頭とした日常の学級指導とともに、全校的な生活指導と特別活動のタイアップによる児童会主体の様々な取組が大きな要因となっている。個人差もあり、まだ十分とは言えないため、今後も家庭・地域と連携しながら継続指導を行う必要がある。今回、保護者からの記述欄を記名式にしたことにより、肯定的・建設的な意見が多く寄せられた。要望等には、丁寧に回答し、理解を求めていく。今年度から発足した月に一度の学校運営関係者会議は、地域の皆様と意見を交流し、よりよい学校運営を行う貴重な場となった。特に、コロナ禍における学校の考えや方針を後押ししてくださったことはたいへん心強く、自信をもって教育活動を展開することができた。

6 学校関係者評価

1月28日に学校運営関係者会議を実施し、学校評価について協議した。主な意見は次のとおりである。

- ① 児童、及び、保護者と教職員の評価が乖離している項目がある。その点をどう考えるか。
- ② アンケートを記名式にしたのはよかった。思いやりのある保護者が多い。
- ③ 桜っ子くんちの後、テレビ取材で「達成感があった。」とコメントしているのを見て、指導する側としてやり甲斐を感じた。指導者へのお礼にも感動させられた。地域の素晴らしい伝統を引き継いでいくことが大切。
- ④ 安全面を考慮して、体操服のまま登下校するのは避けたほうがよい。
- ⑤ 今年度、花ボランティアが実施できていなかったが学校の花壇に花が植えられ綺麗に整備されていて安心した。
- ⑥ 民生児童委員や自治会長の皆様のお陰で、支援を要する児童や家庭への関わりが円滑に実施できた。
- ⑦ 家庭教育が重要である。特に、SNSやゲームの使用、挨拶指導等、家庭での躰が十分でないケースが子どもの健全育成を阻害している。PTAや地域と、課題を共有し、解決へ向けて取り組む必要がある。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- ① 評価者による認識の差については、その要因を分析し、改善を図っていく。特に、学校としては経営方針や様々な取組、児童の様子などについて、より一層周知に努めていくことが重要である。
- ③ コロナ禍において実施が危ぶまれた本校の一大行事である「桜っ子くんち」が検討を重ね、周到な準備を行った上で開催したことが大きく評価された。運動会等、他の行事にしても同様。来年度もコロナ対策が必要となることが想定されるが、活動の目的や意義を明確にしながら万全の体制を整えて、充実した教育活動となるよう努める。
- ④ 運動会の時期に体操服のまま登下校しないよう、上着を着用したり、学校で着替えたりするよう指導する。
- ⑦ 学校保健委員会やPTA研修会等の場を用いて、家庭教育に関する研修会や講演会を実施する。いずれにしても、PTAや学校運営関係者会、地域の方々の理解と協力が欠かせない。個々のケースについては、関係諸機関と連携を密にしながら迅速に対応する。